

阿波久志

貞と心のうまし

歌道

わさき

主の一人りや  
壱へとも  
從姑  
女子

よく孝育あり或る日叔母が怒るかのどへ生りあへず

錢本へ東京にて外は女を貰ツとソゾモ捨て置フダ  
イタク踏出<sup>イタク</sup>一々<sup>あつ</sup>建てかゝと云られてモシ叔母と云ふ御越<sup>おご</sup>込

夢めをいふ中にも怨をさせぬ侍身よりの世話も行儀

わく私御里を呼ぶ其房の役親を残し行くものぞ

貞節美言ことば叔母おとこの言をうとぶ立歸る跡あとふかふか金かね

意筆

東海月夜夢  
夢中見

一首をうけ遠くまでおくる二年も昔に感ひの家

續

詩書百世二號不出

大阪錦画新話 第十卷

第十四号